

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年11月21日 (2013.11.21)

【公表番号】特表2011-509254(P2011-509254A)

【公表日】平成23年3月24日 (2011.3.24)

【年通号数】公開・登録公報2011-012

【出願番号】特願2010-541140(P2010-541140)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/7088 (2006.01)

A 6 1 K 35/76 (2006.01)

A 6 1 K 35/12 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2006.01)

C 0 7 K 14/705 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 31/12

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 39/395 Y

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 35/76

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 47/34

C 0 7 K 14/705

C 1 2 N 15/00 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年10月2日 (2013.10.2)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

H B Vによるウイルス性肝臓感染症の治療および／または予防のための医薬の製造のための s L D L R の使用。

【請求項 2】

肝臓感染症が急性である請求項 1 記載の使用。

【請求項 3】

肝臓感染症が慢性である請求項 1 記載の使用。

【請求項 4】

s L D L R が、s L D L R、またはその融合タンパク質、またはポリエチレングリコール側鎖を有する s L D L R、カルボキシル基の脂肪族エステル、カルボキシル基のアミノアとの反応または一級アミンもしくは二級アミンとの反応によるアミド、アシル部分（たとえばアルカノイルまたは炭素環アロイル基）と形成されるアミノ酸残基の遊離のアミノ基の N-アシル誘導体、もしくはアシル部分と形成される遊離のヒドロキシル基の O-アシル誘導体から選択される機能的誘導体である請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の使用。

【請求項 5】

s L D L R が P E G 化されている請求項 4 記載の使用。

【請求項 6】

s L D L R が、イムノグロブリンとの融合タンパク質である請求項 4 記載の使用。

【請求項 7】

融合タンパク質が、イムノグロブリンの定常領域の全てまたは一部を含む請求項 6 記載の使用。

【請求項 8】

イムノグロブリンが I g G 1 または I g G 2 アイソタイプである請求項 7 記載の使用。

【請求項 9】

s L D L R が、0. 0 0 0 1 ～ 1 0 m g / k g 体重、または 0. 0 1 ～ 5 m g / k g 体重、または 0. 1 ～ 3 m g / k g 体重、または 1 ～ 2 m g / k g 体重の量で使用される請求項 1 ～ 8 のいずれかに記載の使用。

【請求項 10】

s L D L R が、0. 1 ～ 1 0 0 0 μ g / k g 体重、または 1 ～ 1 0 0 μ g / k g 体重、または 1 0 ～ 5 0 μ g / k g 体重の量で使用される請求項 1 ～ 9 のいずれかに記載の使用。

【請求項 11】

s L D L R が皮下に投与される請求項 1 ～ 1 0 のいずれかに記載の使用。

【請求項 12】

s L D L R が筋肉内に投与される請求項 1 ～ 1 1 のいずれかに記載の使用。

【請求項 13】

s L D L R が毎日投与される請求項 1 ～ 1 2 のいずれかに記載の使用。

【請求項 14】

s L D L R が一日おきに投与される請求項 1 ～ 1 2 のいずれかに記載の使用。

【請求項 15】

H B V によるウイルス性肝臓感染症の治療および／または予防のための医薬の製造における s L D L R のコーディング配列を含む発現ベクターの使用。

【請求項 16】

遺伝子治療のための請求項 1 5 記載の使用。

【請求項 17】

H B V によるウイルス性肝臓感染症の治療および／または予防のための医薬の製造における、細胞における s L D L R の内因性産生を誘導および／または増強するためのベクターの使用。

【請求項 18】

H B V によるウイルス性肝臓感染症の治療および／または予防のための医薬の製造における、s L D L R を産生するように遺伝的に改変された細胞の使用。

【請求項 19】

有効阻害量の s L D L R を含む H B V によるウイルス性肝臓感染症の治療および／または予防用医薬組成物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 5 2

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 5 2 】

さらに、s L D L Rで行った試験は、以下の表に示すように、試験したラミブジンならびにアデフォビルジピボキシル耐性変異体の全てに対して活性であったことを示した。